

芦北町議会だより



うたせ

第63号

令和3年
1月19日発行

芦北町女島ゆめもやい緑地仮設団地

- 12月定例議会 P2
- 補正予算等の主な内容 P3
- 議案の審議結果 P4
- 一般質問 P5~7
- 委員会活動・研修報告 P8~9
- 新議員紹介・議会のうごき・編集後記 P10

12月定例議会



議場内の様子

12月定例議会は、11月30日に招集され、12月3日までの4日間の会期で開催しました。

上程されたのは、令和2年度一般会計補正予算ほか議案13件、令和元年度一般会計歳入歳出決算などの認定に係るもの8件、人権擁護委員の推薦につき意見を求める諮問2件で、新規に条例を制定する議案及び決算認定については、所管の常任委員会へ付託し、閉会中の継続審査とし、その他の議案は可決、諮問については適任者として決定しました。

最終日には、3議員が登壇し町政全般にわたり一般質問を行いました。

(議案の内容と審議結果は4ページに、一般質問の内容は5〜7ページに記載)

主な質疑と討論

令和2年度一般会計補正予算(第8号)に関する質疑

質 企業版ふるさと納税として、歳入に1500万円計上しているが、現在までいくらあっているか。

答 災害に対応するための新たな財源確保に関する取り組みで、3件、300万円の寄付があっている。今回、コンサルティング委託料も計上しており、納税額に応じて支払うこととしている。

質 公費解体の進捗状況は。

答 2件が完了し、36件は発注済みである。空き家関係の申請も増えている状況であり、来年度の上半期までには完了したいと考えている。

芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正(職員のボーナスを0・05月引き下げ)に関する討論

反対 景気回復に逆行するもので、7月豪雨では自らも被災したものの、休日返上で町民に寄り添い丸となって復旧・復興に取り組んでいる。他の自治体とは違う条件にあり、こんな時こそモチベーションに悪い影響を与えないよう下げるべきでない。

賛成 反対討論の主旨は十分理解できるもので同感である。しかし、コロナ禍や災害などで、多くの人が厳しい状況にあり、そういう中で職員も我々議員も痛みを共に分かち合うことが必要で、止むを得ず賛成するものである。

《議会用語解説 その1》討論とは？

賛否の理由を述べることにより、自分の意見に賛成・同調することを他の議員に求めること。国会でいう党首討論とは根本的に異なります。

令和2年7月豪雨災害対策関連経費 及 び

新型コロナウイルス感染症対策経費を新たに追加

● 生活応援券事業

家計支援と消費活性化に商品券を発行(5千円/人)……………92,229千円

● 豪雨災害廃棄物処理事業

公費解体関係委託料及び自費解体償還補助金……………375,000千円

● 堆積土砂排除事業

宅地内堆積土砂撤去費用及び償還補助金に係る償還金……………299,288千円

● 地域支え合いセンター運営委託料

区長、民生委員等と連携して被災者の生活再建と自立を総合的に支援…1,174千円

【生活応援券事業】

家計への支援及び地域経済の消費活性化を目的とし、令和2年12月1日現在で芦北町に住民票がある人に対し、1人当たり5千円の生活応援券を発行するものです。この応援券が使用できる店舗には店頭でポスターを掲示しており、令和3年2月28日まで使用できます。

【豪雨災害廃棄物処理事業】

9月定例会で議決した、公費解体関係委託料は、解体件数が当初の見込みより増えたための増額、また、自費解体償還補助金は件数、補助単価の見直しを行っています。

【堆積土砂排除事業】

同様に9月定例会で予算化された宅地内に堆積した土砂撤去排除事業についても、申請件数及び単価の見直しにより増額されました。

【地域支え合いセンター運営委託料】

令和2年7月豪雨災害で仮設住宅(みなし仮設、在宅避難者等)等に居住する被災者の定期的な見守り、巡回訪問、安否確認、生活相談等を行い、各種関係機関と連携して被災者の生活再建と自立を総合的に支援するものです。

補正総額 1,315,000千円

一般会計	1,241,535千円
国民健康保険事業	△6,669千円
介護保険事業	44,115千円
農業集落排水事業	36,019千円

▶ その他主な補正(一般会計) ◀

内 容	補正金額	内 容	補正金額
農業振興豪雨災害対策事業	97,202千円	児童福祉施設新型コロナウイルス感染症拡大防止対策事業補助金	6,500千円
飲料水供給施設災害復旧事業	12,790千円	商工業担い手対策事業	5,500千円
並行在来線災害復旧事業	3,827千円	薩摩街道佐敷宿交流館施設修繕事業	15,568千円

令和2年 第6回芦北町議会定例会 審議結果

区 分	議 案 等	内 容	審議結果
議案第48号	令和元年度芦北町水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	概要等は、P 3に掲載	可 決 認 定
報告第6号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく報告	報 告
認定第1号	令和元年度芦北町一般会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (各常任委員会)	委員会 付 託
認定第2号	令和元年度芦北町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (文教厚生常任委員会)	委員会 付 託
認定第3号	令和元年度芦北町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (文教厚生常任委員会)	委員会 付 託
認定第4号	令和元年度芦北町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (建設経済常任委員会)	委員会 付 託
認定第5号	令和元年度芦北町生活排水処理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (建設経済常任委員会)	委員会 付 託
認定第6号	令和元年度芦北町有温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (建設経済常任委員会)	委員会 付 託
認定第7号	令和元年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (文教厚生常任委員会)	委員会 付 託
認定第8号	令和元年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定について	閉会中の継続審査 (文教厚生常任委員会)	委員会 付 託
議案第59号	令和2年度芦北町一般会計補正予算(第8号)	概要等は、P 3に掲載	可 決
議案第60号	令和2年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	概要等は、P 3に掲載	可 決
議案第61号	令和2年度芦北町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	概要等は、P 3に掲載	可 決
議案第62号	令和2年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)	概要等は、P 3に掲載	可 決
議案第63号	芦北町地方創生臨時基金条例の制定について	閉会中の継続審査(総務常任委員会)	委員会 付 託
議案第64号	芦北町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	熊本県人事委員会勧告に基づく減額改定	可 決
議案第65号	芦北町長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について	国の特別職の職員給与に関する法律改正にあわせた期末手当減額改定	可 決
議案第66号	芦北町議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	国の特別職の職員給与に関する法律改正にあわせた期末手当減額改定	可 決
議案第67号	芦北町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	地方税法施行令の改正に伴うもの	可 決
議案第68号	工事請負契約の締結について	平生橋橋梁補修工事の契約締結	可 決
議案第69号	財産の取得について	小中学校 I C T 機器の購入契約締結	可 決
議案第70号	財産の取得について	新体操フロアの新規購入契約締結	可 決
議案第71号	和解及び損害賠償額の決定について	豪雨災害で発生した樹園地被害に関する、賠償額の決定及び和解	可 決
諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	委員推薦につき意見を求めるもの	適 任
諮問第2号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	委員推薦につき意見を求めるもの	適 任



坂本議員

一般質問 (抜粋)

安心して暮らせる 地域づくりを問う！

質 復旧・復興計画の策定経緯及び進捗状況と概要はどうなっているか。

答 総務課長

町長を本部長とする復興推進本部で計画の方向性を定め、具体的な計画は学識経験者や住民の方で構成する復旧・復興計画策定推進会議を設置し多方面から意見をいただく。概要については、被災者の生活再建、生業の再建、社会機能の回復を柱とし、創造的復興を付加する形で構成し、基本理念として自然と共生する安全・安心の新しいあたりまえを創造するとし、1月中の公表を目指している。

答 町長

強く要請を行った結果、佐敷川は河床の掘削や護岸の嵩上げ等の大規模改修の方針が決定され、すでに掘削に着手している。湯浦川や田浦川等、他の河川においても順次、掘削に着手する予定である。

質 土砂崩れや河川が氾濫、決壊し、農地が流木や土砂で埋め尽くされている箇所がある。



土砂撤去中の佐敷川

。激甚災害制度などあらゆる支援策を用いて受益者の負担がなく来年の作付けができるようにして欲しい。

答 町長

今回の豪雨災害では、農地及び農業用施設で約1,200か所の災害が発生している。共用性のある農道や水路などの施設災害については、農家の負担を軽減し、復旧を加速化するため町の単独の施策として、これまでの受益者の3割負担を、負担金無しで実施することとしている。

答 農林水産課長

小規模な被災箇所については、町単独補助により、出来る限り来年の作付けに間に合うよう随時対応している。受益者の負担率については、激甚災害指定を受け高率補助

となり、現在農地で96・3%程度を想定しており、残りの3・7%程度は、個人財産でもあることから負担していたくことになる。

瀬戸石ダムによる堆積土砂と洪水被害について

質 7月洪水被害にダム湖の堆積土砂がどれだけ影響したと認識しているか。

答 企画財政課長

ダム管理者である電源開発が調査中と聞いており、どれだけの影響を与えたかについてはその結果を待ちたい。

質 川辺川ダム建設で芦北町の球磨川流域の水位はどれだけ下がるのか。ダムに頼るより、集落ごとに避難道及び安全な場所の整備や瀬戸石ダム湖の河床の土砂撤去、瀬戸石ダム撤去が先決ではないか。

答 企画財政課長

第2回球磨川豪雨検証委員会では白石地区ほか3地点において、今次洪水における水位から1・5m程度低下すると推定されるとの報告があつていいる。また、球磨川流域治水協議会では、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進めて行くことを確認している。ダムの撤去要望については現在のところ考えていない。

新型コロナウイルス感染症防止対策について

質 全国で新規感染者数が11月に入り増加している。町は第3波の不安要素をどのように考えているか。

答 町長

年末年始を迎え人の動きが増えてくると、町内でも感染者が増加してもおかしくない状況であり、厳重に警戒する必要があると考えている。防災行政無線、まちだより等で適宜、広報を行い感染予防を図っていく。

質 町が主催するイベントや式典における感染防止対策、また障がい者施設、高齢者施設のPCR検査体制をどう把握しているか。

答 総務課長

マスクの着用、検温、手指の消毒、参加人数の制限などが必要と考えている。

答 福祉課長

障がい者施設、高齢者施設のPCR検査体制は、当該施設において利用者等に新型コロナウイルスの感染が疑われる場合には、施設の協力医療機関等に電話連絡し、指示を受け、必要に応じて診療、検査医療機関で検査を受ける体制となっている。

7・4豪雨災害の検証と 復旧状況を問う！



川尻議員

質 復旧・復興計画素案について議会全員協議会で説明があったが、策定の前提として、町民に対する注意喚起や避難勧告等について、今回の対応を検証したか。また、その結果はどうであったか。

答 総務課長

7月3日18時に予防的避難所として5か所開設した。夜半までの雨量の状況から、避難行動には結びついていなかった。改善策として、警戒レベルと発令基準の見直しや新たなツールの確保により情報発信の重層化に取り組んでいく。

質 排水機場のポンプの稼働状況はどうであったか。

答 建設課長

町内の排水機場は、町が設置した9か所と県が設置した3か所がある。災害前は全て問題なく稼働していたが、小田浦の町・県それぞれの排水機場、花岡東の排水機場が想定外の雨量で浸水し停止、芦北第2ポンプ場、計石排水機場が停電により停止した。なお、残りについては稼働していた。

質 ポンプの管理人に3日から待機させるべきではなかったか。湯浦北の排水機場では

河川の山側が崩落し埋まったので逆流し、湯北地区全体が浸水したと思うが。

答 町長

今回の豪雨は未曾有の大被害であり予測できなかった。今般の災害から多くのことを学んだので、検証を進め次につなげていきたい。

質 危険個所の復旧や町道の通行止め等の現状と復旧の見通しは。

答 建設課長

町道、河川を含め、現在査定中である。実施設計ができ次第、発注を急ぐ。通行止めの町道から優先して工事を発注する。

質 補正予算に公費解体の経費が計上されているが、どう進めるのか。

答 住民生活課長

現在、申請が270件ほどあり予備調査を行っている。来年度上半期まで完了したいと考えており、県の解体組合やコンサルと連携し進めている。

質 河川の整備や干潟の浚渫工事を望む声が多い。計画に入れ込む考えはないか。

答 町長

県に対し堆積土砂の撤去、河床の掘削、堤防嵩上等、安



女島沖における流木等の撤去

全度向上のため要望は行っていたが、その結果、佐敷川やその支流の抜本的な対策を講じるとの説明を受けている。また、漁場環境の向上のための干潟改善については、計画に記載しており早期の完了を目指し、要望していきたい。

本町のコロナ対応策の現状と新たな対策を問う

質 新型コロナウイルス感染症対策について、本町の状況をどう把握しているか。

答 商工観光課長

現時点でコロナ禍による町内事業者の倒産や廃業は聞いていない。町外に本社を置くカラオケ店の撤退があったが、今後も注視していく。

質 町独自の支援策の現在の利用状況はどうなっているか。また、新たな支援策の考えはないか。

答 商工観光課長

11月30日現在、事業継続支援金203件、2,720万円、家賃等の支援金94件、1,228万円、新し生活仕様ビジネス展開事業補助金11件、331万7千円の申請があっている。飲食店応援事業については第1弾のクーポン券を5月に発行し、24店舗の参加で594万7千円が換金されている。第2弾については11月に発行し、現在、36店舗の参加があっている。新たな支援策については、地方創生臨時交付金の動向を見ながら、必要な支援を必要な時期に行っていく。



寺本議員

一般質問 (抜粋)

竹崎町長の町長選 出馬表明について



芦北町女島ゆめもやい緑地仮設団地

質 第1に、11月17日付の新聞報道において、今回の町長選挙への出馬表明が報道された。今回の出馬に關し、どのような思いをもって決意さ

れたのか、具体的な思いを伺う。

2番目に、新聞報道での、「豪雨災害の復旧・復興を第一に、町の再建の道筋をつけ

る。任期中に起きた未曾有の災害、私の責任で復旧・復興に取り組む。再建の道筋、方向性を打ち立てて、一刻も早い復旧・復興を成し遂げる」等、復旧・復興に対する強い思いを感じた。今後の新しいまちづくりについて、どのような構想のもと進めていかれるのか、考えを伺う。

答町長

未曾有の大被害をもたらしたこの7月豪雨、しかもコロナ禍における豪雨であった。私の任期中に起きた災難であり、大災害である。自らの責任で町の再建を図らねばならない。これは政治家なら誰しも覚悟していることと思う。災害という外敵から逃げてはいけない。敵前逃亡は許されない。これが私は武士道ならぬ、政治道と思っている。このようなことを鑑み、私の手できちんと芦北町再建の道筋を立てる、不退転の思いをもって、捨て身で頑張るということを決意した。また、今後の構想については、まずは災害からの復旧・復興一点に集中したい。復旧・復興なくして、未来は語れない。その思いで復興推進計画に、新しいあたりまえをスローガンと

して掲げ、これからの町民の皆さん方が、またこのふるさとで安心して生活していきたい。また、子どもたちにも歴史ある文化の香り高い、品格ある町をつないでいきたい、残していきたいというふうに思っている。

質 ただいま町長の熱い思いと重大な決意、そして新しいまちづくりについて、素晴らしい構想をお伺いし、感銘・感動した。

再度、町長に伺う。町民に向かって、特に訴えたいことがあれば申し述べていただきたい。

答町長

芦北町民、全ての皆さん方が大変辛い経験をされた。被災されたお家を一軒一軒回る中で、声なき声をたくさん聞いた。町民の皆さんとともに、「あとしばらく頑張ろうじゃございませんか」、「もう少しだけ耐えていこうではございませんか」、そんな話をして回った。かつての、あの芦北町の素晴らしい勢いと、熊本県はおろか、全国に子どもたちが誇り得る、そんな町をつくるために粉骨砕身、頑張っていく決意である。

閉会中の継続審査・委員長報告(建設経済常任委員会)

議案第48号

「令和元年度芦北町水道事業会計利益の処分及び 決算の認定について」に係る審査

先の令和2年第4回定例会初日に当委員会に付託されました、議案第48号「令和元年度芦北町水道事業会計利益の処分及び決算の認定について」は、11月18日、担当課長ほか職員に出席を求め審査を行いました。審査に当たりましては、決算審査資料及び芦北町水道事業会計決算書によって説明を受け、予算が適正かつ効率的に執行されたかに着目し、慎重に審議しましたので、その結果を報告いたします。

主な事業として、国道3号線に布設されている水道管など、老朽化し漏水が多い6カ所の配水管布設替工事が行われています。また、収益面においては、2億935万8,616円の事業費用に対して2億5,140万4,525円の事業収益があっており純利益として4,204万5,909円で、安



花岡浄水場

定供給と効率的な経営への取り組みが見られ、結果、未処分利益剰余金1億4,361万7,542円を翌年度に繰り越すこととされています。なお、芦北町債権管理条例第10条の規定により、2,700円が不納欠損処分されています。

主な質疑を申し上げますと、令和元年度に行った水道管布設替工事の管の耐久性に関する質疑に対し、ポリエチレン管を使用しており、耐震性と柔軟性に優れ、水道管が露出しても抜けにくい利点があるとの答弁がありました。また、7月豪雨災害における被災状況の質疑もあり、停電や浄水場冠水による取水停止や漏水などにより、一時は給水区域内全域で断水となったが、徐々に復旧していき、7月23日には全世帯断水が解消され、現在は、安定供給ができていたとの答弁がありました。なお、各地区で管理する水道施設の復旧について、一般会計の補助制度があり、区長と連絡を取りながら対応しているとの答弁もあっています。

以上、当委員会に付託されました、議案第48号「令和元年度芦北町水道事業会計利益の処分及び決算の認定について」は、予算決議の趣旨と目的にしたがって適正な事業が実施されたものと判断し、全会一致をもって利益の処分は可決すべきもの、併せて決算は認定すべきものと決しました。

研 修 報 告

●令和2年度町村議会議員研修会 10月2日(県立劇場)

令和2年度町村議会議員研修会が熊本市の県立劇場で開催され、「これからの防災のあり方」と題し、防災システム研究所 所長 山村武彦氏が、平成23年東日本大震災や平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨等による被災状況の説明等、新たに確認された課題や教訓について解説されました。また、昨年より広がりつつある新型コロナウイルス感染症拡大の影響を取り上げ、警戒すべきは①ウイルス感染 ②不安・恐怖心理の感染 ③偏見・差別の感染の「3つの感染」であると説明がありました。さらに、このような災害危機に直面した場合は、「求められる^{ほうせつ}包摂の心」「偏見脱却」が必要であり、近所コミュニケーションの希薄化が指摘される中、公助の限界とともに、これからは『互近助』『防災隣組』が高齢化社会に不可欠であるとのことでした。

●令和2年度町村議会広報研修会及び広報コンクール表彰式

11月12日(菊陽町図書館ホール)

はじめに、議会広報コンクールにおいて、特選から特別賞までに入賞された5町村の表彰式が行われ、その後、全体的な講評と各町村ごとの広報紙に対する審査コメントをいただきました。芦北町分については、季節感のある表紙や読み手に配慮したページ表記など評価いただいた部分もありましたが、文章が長く大味であるなど辛口のコメントも多く、参加議員一同、読みやすく町民の関心をもっていた紙面づくりについて改めて考えさせられた研修となりました。



●令和2年度町村議会常任委員長・議会運営委員長研修会

11月17日(大津町文化ホール)

「コロナ禍における地方創生 逆参勤交代が日本を変える」と題して、三菱総合研究所 主席研究員 松田智生氏の講演がありました。逆参勤交代とは、都市生活者の地方への期間限定型リモートワークのことで、移住や転職は不可能だがコロナ禍をきっかけに、IT環境が整った地方で勤務し、週のうち数日は地域に貢献しようとするものであり、ワーケーション(仕事と休暇)の一つ先を求めているとのこと。アンケートによると従業員1,000人以上の大企業では興味を示すところも多く、地方創生の手段として注目されつつあります。参加議員一同、真剣に聞き入り有意義な研修となりました。

新議員の紹介

12月27日、町長選挙と同時に実施された町議会議員補欠選挙において、当選されましたお二人を紹介します。



楠原
(64歳) 清照

《経歴》 熊本県立水俣高等学校卒
東京デザイナー学院中退
芦北町住民生活課長
芦北町税務課長
(株)吉永商会 芦北支店



長口
(66歳) 隆

《経歴》 熊本県立水俣工業高校卒
熊本県立農協専門学校卒
JAあしきた湯浦基幹支所長
熊本県農業公社非常勤駐在員

議会のうごき

10月 2日 町村議会議員研修会
5日 議会運営委員会
芦北町議会臨時会
16日 議会広報委員会
22日 議会全員協議会
29日 議会全員協議会
11月 2日 議会広報委員会
6日 議会広報委員会
12日 町村議会広報研修会

11月17日 町村議会委員長・議運委員長研修会
18日 建設経済常任委員会
24日 議会運営委員会
11月25日 全国町村議会議長大会(東京)
30日 芦北町議会定例会(議案審議)
水俣・芦北広域議会臨時会
12月 3日 芦北町議会定例会(一般質問)
18日 水俣・芦北広域議会定例会
25日 熊本県町村議会議長会理事会

議会広報委員会

委員長 川尻 成美
副委員長 林 宏
委員 宮内 秀志
委員 寺本 順一
委員 楠原 清照

あけましておめでとうござい
ます。
昨年は新型コロナウイルス
と未曾有の大被害によりまし
て、町民の皆様にとつて大変
な年でありました。昨年の暮
れには、コロナ感染者が次々
と確認され、本町でも身近な
ものとなりました。
水害により多大な被害を受
けられた多くの方々、正月を
仮設住宅で過ごされた方々、
更に新型コロナウイルスに感
染された皆様に心からお見舞
い申し上げます。
今年の正月は多くの家庭
で、親子、親戚など集まる機
会を楽しみにされておられた
と思いますが、中止された家
庭が多くあつたのではと思
います。
普通の平和な暮らしがどれ
ほど大切であるか、思い知ら
される事となりました。
今年一年が皆様にとつて良
き年でありますようにご祈念
申し上げます。

(寺本 順一)

